

Harvard Graded Direct Method Teachers' Group News Bulletin

第 15 号 英語教授法通信 1965年 6 月 1 日

編集・発行・英語教授法研究会 事務局 東京都世田谷区世田谷 2-1184 吉沢美穂方 Tel. (429) 5929



まだ戦争のあとも消えない1947年のことであつた。数人の東京女子大の卒業生が、自分たちの子供に英語を教えていただきたいと母校を訪れた。その時、Miss Chappell が、新しい方法でそのクラスを教えてみたいとのことで、渡返せつ子さんのわび住い、あるアパートの一室で週1回のクラスが実現した。中学生から、まだ赤んぼの域を脱しない幼児までの10人ばかりのクラスであつたが、ここに、Miss Chappell が戦争中ハーバードで研究して来られたGDMによる日本最初のクラスが誕生したわけである(写真)。阿江美都子さん、渡辺さん、それに私を含めた数人の親たちは、生徒の反応、進歩を見て目を見張る思いであつた。毎週の授業を熱心に見学したし、クリスマスなどには、take, put, give

だけで、舌切り雀、桃太郎などの劇をしたりしたものだった。

この生徒たちは、今では成人して、結婚したり、人の親になり、授業中いつも眠ってしまっていたベビーまでが、もう大学生になっているが、この人たちが、高校時代、大学受験でも英語で苦労したことがなかったということは、GDMで固めた基礎が大きい力になっているといえよう。その後間もなく、私たちがGDMのクラスを少しづつ教え始めたが、1950年にI. A. Richards氏が来日された頃は、まだ、1週1回の授業では、とこのことだけが問題になったような状態であつた。

このように家内工業的な規模で始められたGDMは、それ以来地味で目立たない、しかし絶え間ない活動を続けて来たが、会員 150

人以上になった現在、よいものはかならずよい実を結ぶことを示し、若い新進のメンバーに対する期待は大きい。近い将来、見ちがえるような形になったこの bulletin で、現在の研究会のことなど、昔話しとして読む時が来ることを確信している。

外から見た GDM

Graded Direct Method に対する批判

この教授法には確かに幾多の推賞すべき点があり、また、Richards 博士と Gibson 女史は非常に成功を収めてきた。この教授法は異った年令や言語背景の人たちの混合クラスでも用いられるし、教師も教科書の作成者も学習者の母国語を知る必要がない。ことばを制限することによって教材の範囲が最も効果的に限定され、したがって学習の困難が非常に軽減される。段階的に教授する方法は、混乱と誤謬の起こるのを少なくし、また、Basic English の場合のように生徒がラテン文法のわくにはめて教えられてとまどうこともなく、構文の教授も明瞭で且つ現実的である。既に指摘したように、多大の研究と多くの歳月や忍耐が、これら教科書・教授用手引き・視聴覚教具、その他教授に必要な多くのものを作り出すのについやされて来た、その上、すぐれた教材が、今では入手できるし、言語研究所は親切にその援助をしている。さらにこれは教授現場の実際問題や困難から遊離した単なる抽象論ではなく、実際 Gibson 女史と Richards 博士は、あらゆる種類の生徒や授業環境でその教材を長年実験してきた人である。

一方この教授法は相当批判もされて来たがこの批判が経験や結果から見て正しいかどうか、また単に抽象的な理論上のものであって

現実の場に通用しない批判かどうかについてはまだ判定できない。今日まで未だこの教授法は他の教授法と同一の言語能力のテストやこれに類する方法と比較されたことがない。この教授法と他の教授法との考え方の相違点は、言語の性質についての理論にある。言語の形が全く任意的なものであるかどうか、あるいはそれは意味を十分に持っている、「形式の論理」に基づいて段階的教授法を実施することができるかどうかについては、これは言語学者と言語哲学者の決定すべき事柄である。英語教師が関心を持つのは作り出された実際の教材であり、どんな教材が実際の言語教授に有用であるかということである。

(Anne Cochran, *Modern Methods of Teaching English As a Foreign Language*, 1952, 江草清子訳, 開隆堂)

英語教授法研究会は、1949年、前東京女子大学の英語教師コンスタンス・チャペル女史の指導で、東京女子大卒業生数名によって発足したものである。Harvard Graded Direct Method とは、ハーバード大学の言語研究所(Language Research Inc., Harvard University) のリチャーズ教授によって始められた言語教育法で、長年東京女子大で教鞭をとったチャペル女史は戦争中ハーバードでこの方法を学び、戦後日本に帰って後、これを日本人学生達に紹介したのである。

この教育法の特徴は、語学習得の初期の段階で実際の事態とそれを描写する文との結びつきを強調することであり、教材は生徒が語を容易に理解することができるよう、注意深く類別されている。原則として生徒の自国語は教場で使用されない。このグループは中学校及び高等学校の教員と家庭の主婦 100人ほどの会員からなり、定期的に集まり、この教育法とその問題点について討論している。グループはまた例年中学校、高等学校教員の

ために Harvard Graded Direct Method のセミナーを開催し、この教授法普及のため公開実習を行ったりもする。このグループは比較的少数のうえに外部からの援助もなく日本の英語教育界での確立した地盤をもっていないために、この方法を一般に普及するに苦勞している。したがってこの方法による英語教育で成功をおさめて、英語教育界での認識をえることにグループの将来はかかっていると見えよう。(中屋=シエワンテス報告第7章、英語および日本語教育、「日米フォーラム」1962年5月号より)

学園訪問(玉川学園の巻)

いくつもの小山に、花咲く木あり、草花あり……そんな郊外にある玉川学園の生徒は、小原イズムの夢が一杯だ。早速この中学位の主任樋口豊治先生にお話しをきく。樋口さんは自分では「横着ものだ」というが、密度の高い計画をたてては、英語科職員を緊張させるらしい。かってGDMを兵庫で成功させた方で、インスピレーションがポンポンわく。

まず会員の高橋美智さんからこの英語教室についてきいた。クラスは能力別に編成され、更に外地から帰った人の子弟などのための、別の会話クラスがあるという。

教材を見せてもらってその量にびっくりした。1 lesson は2~6 series に分れ drill 1 は patterns to learn, 2 は pattern practice, 3 が text とある。いずれも教科書をバラバラに消化して再構成したもの。productionのやり方は、各先生に任されているが、oral work を重視し、又 writing も A, B に分かれて区分テストが行なわれ、作文力は毎時の short tests でつけられる。この教材の他に樋口構想は更に発展して「個別プリント」——生徒各個人の個人別学習用のプリントが戸棚に一杯だった——が用意されていて、生

徒の学習意欲をかりたてる仕組である。Oral productionのためにはテープの代りにマグネティックの disc が完備されて、生徒の机の中できかれるようになっており、hearing system と共に L. L. の効果をあげている。pictures や slides も簡単に見せられるように設備され、又玉川の特徴の一つである教科書製作により、これらの補助教材は生徒の作品でもあり、見事に作られている。(升川記)

English Through Pictures, Books
1 and 2 ¥ 220 each
First Workbook of English
(大判) ¥ 240
(ポケット判) ¥ 170
First Steps in Reading English
..... ¥ 170
Anglophone Records for English
Through Pictures, Series 1 and 2
..... ¥ 6,000 each
English Through Pictures Film
Strips, Series 1 and 2
..... ¥ 15,320 each

チャールズ・E・タトル商会

神田店 東京都千代田区神保町1-3
TEL. (291) 7071-2
高島屋店 東京都中央区日本橋高島屋
6階 TEL. (211) 5029

(P. 7 より)

柴平雅弘さん 福生中学から都立武蔵高校へ
関根栄さんは国分寺市国分寺2548に新築。
伊藤豊子さん 津田英語会に出講。
樋口豊治さん 5月31日に渡米。
新会員
渡辺綾子さん (埼玉県所沢市緑町4-30)
渡辺恭子さん (香川県高松市宮脇町875-4)

Books for Learners

I. A. Richards and Christine Gibson, *English Through Pictures, Book 1* (New York: Washington Square Press Books. First published in 1945.) 例の stick figure の絵によってひろく知られ、かくれたベストセラーのひとつといわれている。GDMの標準的テキストで略称EP1。レコード、スライド、映画などの視聴覚教具や、workbooksや教師用書などが、この本を中心にととのえられている。(¥220)

I. A. Richards and Christine Gibson, *English Through Pictures, Book 2* (New York: Washington Square Press Books, 1957.) EP1につづいて、さらに語彙、文型、教養をのばす。(¥220)

A First Workbook of English (New York: Washington Square Press Books, 1959.) EP1の前半をカバーする練習問題(¥170)

A First Workbook of English (Tokyo: Charles E. Tuttle Co.) アメリカ版がポケット判で、精神年齢のやや進んだ生徒むきなのに対して、この日本版はサイズも大きく、内容もすこしやさしく、低学年むき。

A Second Workbook of English (Cambridge, Massachusetts: Language Research, Inc., 1950) アメリカのふつうの家庭生活や学校生活をえがきながら、EP1の後半の単語と文型を練習させる。

First Steps in Reading English (New York: Washington Square Press Books, 1957) たのしみながら発音と綴字の関係をマスターできる、readingの第一歩。(¥170)

Learning the English Language, Books 1-4 (Boston: Houghton Mifflin, 1942-53). LELと略称され、EPの前身であるが、新語・新文型の導入のしかたがEPより意識

的であり、ひとによってはこちらの方を好む。
Workbooks for Learning the English Language, Books 1-4 (Boston: Houghton Mifflin).

★*True Stories about Bees* (Tokyo: GDM Publications, 1963.) 科学的な考え方をしるのに、むつかしいことばはいらない。わずか500語で、有名なフリッシュ博士のミツバチの実験のおもしろさをつたえるハーバード大学言語研究所の教材。中学上級から高校初級向。(¥100)

Constance Chappell, *Stepping into the Past* (Tokyo: Shinozaki Shorin, 1958.) やさしく制限された単語と文型でイギリスの歴史をかたる。

★J. B. Wight, *An Outline History of the United States* (Tokyo: GDM Publications, 1963-1965). ¥100 (Book 1のみ¥80)

Book 1: Early America

Book 2: America Becomes Independent

Book 3: Expansion to the West and the War between the States

Book 4: The Growth of Industry

Book 5: Supplement (未刊)

アメリカ史の概略を1000語以内できわめて要領よく、客観的にまとめている。文章についても比較的具体的でやさしいBook1の記述から、巻をおって、より抽象的な議論へと、よく段階づけられている。高校から大学程度。

★Virginia French Allen, *People in Livingston, Books 1, 2*. 高校初級から大学初級、会話学校など、どこでもつかえる中級教材の決定版。アメリカ生活をいきいきとえがく、おもしろい話が、やさしい文型と1000語以内でかかっている。(各冊 ¥120)

★は英語教授法研究会出版部で扱っています。

Select Bibliography for Teachers

★ Mioko Yoshizawa, *Teacher's Handbook for English Through Pictures* (Tokyo : Japanese Representatives of Language Research Inc., 1955, rev. ed. 1963). EPでおしえる人にはもちろんのこと、おしえない人でも入門期の指導には必読の書。(¥ 400)

★ *To the Teachers of EP2* (Tokyo : GDM Publications, 1964). (¥ 30)

Language Research, Inc., *Teacher's Guide for Learning the English Language* (Boston : Houghton Mifflin Co., 1945). Direct methodのclassroom procedureについて、かゆいところに手がとどく。

I. A. Richards and Christine Gibson, "Mechanical Aids in Language Teaching" *English Language Teaching*, Vol. XII, No. Oct.-Dec. 1957. 視聴覚におけるモード主義に反対し、本質的なあり方を説く。

I. A. Richards, "Responsibilities in the Teaching of English", *Speculative Instruments* (London : Routledge and Kegan Paul, 1955). Gradingの原理と*First Steps in Reading*の成立にふれる。

Basic Englishについては

C. K. Ogden, *Basic English* (London : Basic English Publishing Co., 1930) より

C. K. Ogden, *The System of Basic English* (New York : Harcourt, Brace and Company, 1934) がくわしくてよい。

C. K. Ogden, *The Basic Words* (London : Basic English Publishing Co., 1932) は850語のひとつひとつについて、root senseとshift of meaningをしめして貴重。

以上すべてをひっくるめてBasicの発見からEPの成立までの背景と理論を一冊でまとめた便利な本が、

I. A. Richards, *Basic English and Its Uses* (London : Kegan Paul, Trench, Trubner & Co., 1943) で、視聴覚教育についてもすぐれた見解をしめしている。この本を手がかりにして、先へすすめば

I. A. Richards, *The Philosophy of Rhetoric* (New York : Oxford University Press, 1936) が、GDMの根底にある言語哲学である。

L. W. Lockhart, *Basic Picture Talks* (London : Basic English Publishing Co., 1942) は、ことばはすべてたとえであるという例を絵でおもしろく示している。

C. K. Ogden and I. A. Richards, *The Meaning of Meaning* (New York : Harvest Books. First published in 1923) は意味論の古典であるが、手がかりとして

S. I. Hayakawa, *Language in Thought and Action* (New York : Harcourt, Brace, 1947) がよい、大久保忠利訳「思考と行動における言語」(岩波現代双書)がある。

樋口豊治 "Graded Direct Methodによる入門期中学校英語学習の実証的研究" 神戸大学研究紀要 12 の 11, 1955)

吉沢美穂 "Graded Direct Methodについて" 英語教育, 1958年11-12月, 1959年2-3月。

升川潔 "Oral ApproachとG. D. M." 都立杉並高校紀要, No. 2, 1962.

★片桐ユズル "英語工学へのノート" 都立杉並高校紀要, No. 3, 1962. ¥50.

★片桐ユズル "Oral Introductionの問題点" 都立杉並高校紀要, No. 4, 1963. ¥50.

★片桐ユズル "外国語科(英語)の評価について" 都立杉並高校紀要, No. 5, 1964. ¥50.

★片桐ユズル "メタファーと外国語教育" 都立工業短期大学研究報告No. 12, 1964 ¥100.

★は英語教授法研究会出版部で扱っています

暗誦について

小川 登

暗誦の可否については議論があるが、私は“毎時間暗誦”というべきものの一年間の実践の最後に無記名でアンケートを取ってみた。a群b群c群というのは指名暗誦の成績（五段階評定による）の上位者から15人（a群）下位者から15人（c群）を取って残り21名をb群としたものである。アンケートを取った時1名欠席していたので、この表の生徒表1（アンケートA）

好きさ	a群	b群	c群	計
イ 大変好き	2			2
ロ 少し好き	7	4	2	13
ハ 好きでも 好きでもない	6	11	9	26
ニ 少しきらい		4	1	5
ホ 大きらい		2	3	5
合計	15	21	15	51

表2（アンケートB）

所要時間	a群	b群	c群	計
約 5 分	1	1		2
約 10 分	2	1		3
約 15 分	5	5	3	13
約 20 分	5	3	6	14
約 25 分	1	3	1	5
約 30 分		4	1	5
約 35 分	1			1
約 40 分				
約 45 分		1		1
約 50 分			1	1
何分かかる かわからぬ		2	3	5

数は合計51名となる。又アンケートの質問事項中此処で取りあげる2項目というのはAは「君は暗誦が好きですかきらいですか」Bは「8行の英語の文章を完全におぼえるのに何分位かかりますか」というもので夫々その後列挙した解答の中から該当のものを選択させた。

これで見ると51名中暗誦が大きらいの線を出している者は5名のみで約9割が1年間続けられた暗誦にさほどの抵抗を感じてはいない事を物語っている。又51名中43名が30分以下の時間で覚えられる（その中27名の多数が15分乃至20分で記憶できる）という事は此の程度のクラスに課される宿題としての暗誦の量は8行前後が手頃であることを示していると判断するのは早計であろうか。（投稿）

おしらせ

新役員が4月23日の総会でできまりました。

会長 吉沢 美穂

事務局 吉沢 美穂（代行 升川潔）

会計 高橋 美智（8月まで）

丸井 和子（9月から）

新会計年度ならびに会費について、会計年度を9月新年度とすることになり、これにともなう暫定措置として、1965年4月から1966年8月まで17ヶ月分として600円を今年度の会費として、6月5日の大会までにはらってくださいと、事務局ではのぞんでいる。

絵を使用した文型練習という本がちかく大修館から出るがこれは吉沢さんが、「英語教育」に連載したものを、片桐さんと升川さんの協力をえて、全面的に改訂増補し、GDMをわが国の実情にあわせる手引として画期的な便利な本になる予定。Workbookつき。

意味論研究会では室勝さんを中心に毎月あつまっていたが、その成果を片桐ニズルさんがまとめて、「意味論入門」（思潮社）としてちかく出版される。

Negation in Japanese という村木正武さんの論文を Bulletin の別冊として出したのでこの号は15号となりました。

消 息 (名簿をなおしてください) —————

阿江美都子さんの電話, 局番かわって(311) 4713。

相沢佳子さん国分寺市戸倉新田225に転居。
長谷部米子さんの電話, (377)4824に変更。
林ゆり子さんの新住所, 茨城県日立市成沢町成沢アパート。

保坂さん結婚して梶山昌子さんとなり, 新住所は大阪府寝屋川市河北 406 十条製紙社宅。

井口喜美子さんはケント英語学校でおしえることになりました。自宅の電話 (370)6887 に変更。

伊藤卓治さん, 地番変更。杉並区天沼 1-2-36 西川方。

伊藤博子さんは 4 月から東星学園で GDM

を実施することになりました。自宅の地番変更, 東村山市青葉町 4-1655。

片桐ユズルさんは都立工業短大をやめて, 神戸市葦合区中島通 1 丁目松蔭短期大学 TEL (22)6100, にかわりました。このため事務局と出版関係の連絡先は世田谷区世田谷 2-1184 吉沢美穂さんになりました。

加藤慶子さんは埼玉県北足立郡桶川町立花 1071 に転居。

久保田あやさんの新住所は鎌倉市由比ヶ浜 4-11。電話 0467-2-1628。

前田美知子さんの新住所は板橋区成増 318 上田方。

丸井和子さんは九州女学院をやめて上京, 文化学院, ケント英会話などで活躍することになった。新住所は町田市森野 2-1250 住方 電話 (0427)22-5311。

小川登さんの新勤務先は武田学園 (広島県宇佐郡阿部野町)。(一P. 3)

文化学院

英文科—Bilingual Humanities Program

(1965年度 新設)

学生に日本語と英語の両方を理解練達させることにより人間の文化に対する深い洞察を育てることを目的とする。このため毎日 2 時間づつ 10 名以下の小クラスにわけて英米人の教師による英語英文学の徹底教育を行なっている。

入学資格—高校卒業または同程度の学力あるもの
修学年限—3 カ年

英語科

小人数のクラスで人間らしい人間教育を目指し実際に役立つ英語の力をつけることに重点をおいた高校課程。基礎英語の教育は過去 10 余年 Harvard Graded Direct Method によっている。

絵を使った文型練習

国際キリスト教大学講師 吉沢美穂著

英語入門期に視聴覚的な教授法が役立つことは論をまたないが、その効果的な用法は十分に研究されているとは言えない。本書の著者はハーバード大学のI・A・リチャーズ博士のもとで言語伝達の理論に基づいた英語教授法を学び、爾来十余年にわたる研究と実践を一冊にまとめた。ここに扱われた文法事項、語法、基本語は三百に及び、教科書の種類、学年に関係なく、ページを開けば絵を使った文型練習が得られる。練習の効果を高めるために初・中・上級別のワークブックを添えた。

中学校、高校、講習会、家庭での学習に最適！

A5判函入（テキスト一冊

ワークブック三冊添付）

七月中旬刊 定価六五〇円

英語の発言——指導と練習

鳥居次好 兼子尚道著 五七〇円

楽しい教室英語

メリー・北島 奥田夏子著 二〇〇円

英語への招待

上野景福著 三二〇円

英語展望台

沢正雄 速川浩著 二五〇円

アメリカ風物鶏肋集

吉田正俊著 二五〇円

アメリカ留学への道

福田邦彦著 四五〇円

構造言語学の輪郭

安井稔著 五八〇円

英語構造の理解と演習

ハロルド・V・キング著 四九〇円

英語語法事典

石橋幸太郎他編 九八〇円

東京都千代田区神田錦町 3-26 大修館書店 TEL (291) 3961-5 振替東京40504